

Kwacha(クワチャ)はチェワ語で「夜明け」を意味します。

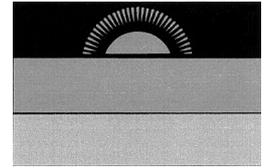
編集・発行：日本マラウイ協会  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付  
Tel. 03-3447-2921 Fax. 03-5798-4269  
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>  
E-mail [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

### 【マラウイ共和国】

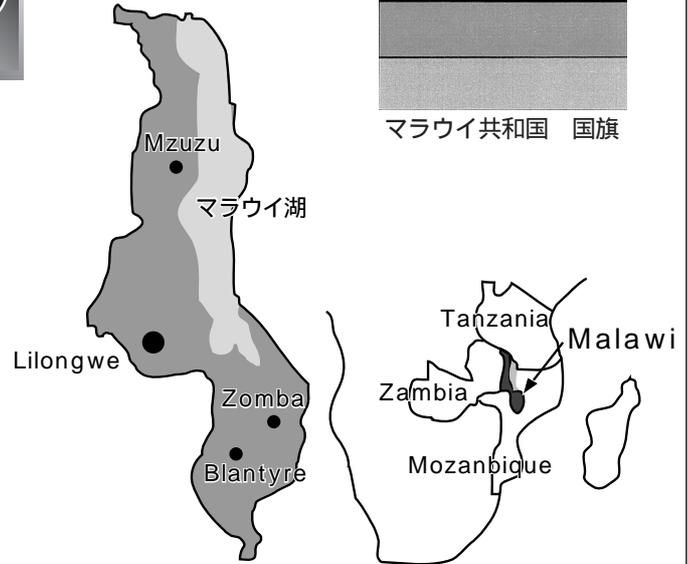
面積：118,484 平方 km(日本の約 1/3)  
人口：1131 万人(2000 年推計) 首都：リロングウェ  
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語  
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ  
為替レート：US\$1 = MK 91.719(3 月 1 日現在)  
MK 1 = 1.34229 円(3 月 1 日現在)

### 【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。  
会員数：263 人(3 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



## 日本マラウイ協会設立 20 周年記念寄稿

日本マラウイ協会は 1983 年 2 月 26 日に設立されてから本年で 20 周年を迎えた。これを記念して 2 人の寄稿を掲載する。

日本マラウイ協会会長 数原孝憲

### 日本マラウイ協会設立 20 周年を迎えて



マラウイ愛し、マラウイの人々との架け橋を目指して汗を流している会員の皆さん、この記念すべき年を迎えて、これまでの協会の歴史と成果を振り返りつつ、ともに喜びを分かち、これからの更なる発展に向けて思いを新たにしたいと思います。

日本マラウイ協会は、初代故ト部敏男会長そして秋山忠正前会長の下で、在京マラウイ大使館、国際協力事業団をはじめ、多くの関係諸団体各位の支援を得て着実に発展を重ねて来ました。その中において、協会活動の原動力となっているのが、青年海外協力隊のマラウイ派遣 OB・OG の皆さんの献身的な熱意と企画実行力です。楽しみながら、仕事と両立させている皆さんに改めて敬意を表します。

これまでの活動の中で、「シマを食べる会」、「国際協力フェスティバル」などの恒例イベントのほか、機関紙「KWACHA」、「マラウイ共和国トラベルガイドブック」、同国「国情紹介誌」、「チェワ語辞典」の発刊、更には「ウオームハートプロジェクト(現役協力隊員のボランティア活動への資金支援)」や「食糧支援募金活動」など、多くの見るべき成果が得られ本当にうれしく思います。

協会の活動は青年海外協力隊のマラウイ派遣事業と一体となって進められてきましたが、私が協力隊事務局長をしていた 1983 年、マラウイ派遣の 5 人の隊員他 1 人の隊員を交通事故で亡くしました。北川和由、青木伸子、藤原敏雄、林不二夫、相磯周そして川島雅信(ザンビア)の故隊員諸君です。痛恨の出来事でした。アフリカに命を捧げたこれら故隊員諸君の遺志を引き継いで、多くの協会会員、特に協力隊 OB・OG の皆さんとともに、協会活動の支えとしてゆきたいと願うとともに、これからの協力隊事業の発展を祈っています。会員各位の変わらぬご支援を期待いたします。

駐日マラウイ国大使 J. J. Chikago

### CONGRATULATORY MESSAGE TO MEMBERS OF THE MALAWI SOCIETY OF JAPAN ON THE 20th ANNIVERSARY OF THE SOCIETY



As always, it is an honour and privilege to contribute to the 'Kwacha Bulletin'. I am most grateful to the Chief Editor for considering to include my message in the March issue which will mark the 20th anniversary of the founding of the MALAWI SOCIETY OF JAPAN on February 26th, twenty years ago.

It is sad that at the time of preparing my contribution, I received the news of the passing away of Japan's first Ambassador to the Republic of Malawi and also the first chairman of the Malawi Society of Japan late Mr. Toshio Urabe. The former Ambassador passed away on 8th February from a heart failure at the age of 90. A special message of condolence was sent to Mrs. Urabe and the bereaved family. The fruits of the pioneering work of the former Ambassador are obvious for posterity to appreciate.

Allow me to congratulate the founding members of the 'Malawi Society of Japan' on their strategic vision. The establishment of the Society was a result of deep sense of wisdom and ingenuity. The founding members had in their mind the need for continuity and the importance of deepening the cultural understanding between the peoples of Malawi and Japan.

All of us know that cultural differences can cause serious social problems. It is only when people appreciate other people's cultures that their cooperation can deepen. I am always overwhelmed by the selfless spirit of the Japanese people. I want to endorse the kind and encouraging remarks which were made by Prime Minister Junichiro Koizumi on January 31st 2003 when delivering his annual State address to the Diet. I quote: "In any age it is always the young people with the spirit of self-help and self-discipline, concern for others, and high aspiration who pioneer to a new era. It is people who are the engine for reform. Whether it be a young man teaching mathematics and physics in the Republic of Malawi in Africa, or a woman employed in healthcare guidance in a village in the southern regions of Mexico, there are currently approximately 2,400 members of the Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) who, in harsh environments with different cultures and values to those of Japan, are contributing to nation-building in developing countries." unquote.

There is nothing more to add for us in Malawi but to commend the government and people of Japan for their selfless commitment to the people of Malawi.

I count myself lucky and privileged that my government considered me suitable to represent the people of Malawi in this great country. Working in Japan is a lifetime and memorable opportunity

On behalf of the President of the Republic of Malawi His Excellency Dr. Bakili Muluzi, the government and people of Malawi, kindly extend my deep-felt congratulation on the founding of the "Malawi Society of Japan".

I wish you the best in the New Year 2003 and may God bless.

Ambassador J. J. Chikago

**レポート マラウイ食糧支援募金の報告**

日本マラウイ協会 (飢饉対策班) は、2002 年 8 月 27 日に第 1 次マラウイ食糧支援募金として、それまでに集まった 642,000 円を国際連合世界食糧計画 (WFP) 日本事務所に送金しました。その後 10 月末を目標として第 2 次募金を行い、集まった 778,000 円を 11 月 29 日に同じく WFP 日本事務所に送金しました。

募金は、当協会の郵便振替口座への振込み、マラウイ独立記念日である 7 月 6 日のシマを食べる会や 10 月 5 日と 6 日の国際協力フェスティバルでの募金とバザールなどを通じて多くの方々から寄せられたものです。



The Food Aid Organization of the United Nations  
国際連合の食糧援助機関  
WFP Office in Japan (Yokohama)  
国際連合世界食糧計画日本事務所 (横浜)  
日本事務所宛 924 号  
2002 年 11 月 29 日

日本マラウイ協会 御中

拝啓 晩秋の候、時下ますます清祥の段、お慶び申し上げます。この度は、下記の通り、2002 年 11 月 29 日付のマラウイ向け募金を WFP 郵便局に送金いただきました。誠に有難うございました。

早速 WFP 本部に送金し、マラウイにおける WFP 緊急食糧援助に速やかに充当されるよう手続を進めていき、支援状況など追ってご報告させていただきます。今後ともマラウイでの食糧援助状況などお知らせいたしますので、引き続きご理解、ご協力いただきまますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

金 778,000 円

国際連合世界食糧計画 (WFP) の食糧援助活動への募金として送金に受領いたしました。



6F, Pacific-Yokohama, 1-1-1, Minato Mirai  
Nishi-ku, Yokohama, Japan 220-0012  
Telephone: +81-45-221-2510 Fax: +81-45-221-2511  
http://www.wfp.org  
〒220-0012 横浜みなとみらい一丁目1番1号  
パシフィック横浜ビル  
電話: +81-45-221-2510 Fax: +81-45-221-2511  
http://www.wfp.or.jp

第 2 次募金の WFP 日本事務所領収書  
(第 1 次募金領収書は前号に掲載)

募金合計 142 万円は 12 月 19 日にローマの WFP 本部へ送金され、本年 1 月 7 日にマラウイ緊急援助活動への寄付として登録されました。具体的には「南部アフリカ危機対策」(Emergency Operations (EMOP) 10200.0 - "Southern Africa Crisis Response") の枠組みの中で行われているマラウイ向けの食糧援助に使われます。同対策は、マラウイ、レソト、モザンビーク、スワジランド、ザンビア、ジンバブエ 6 か国の被災者約 1,000 万人を対象に 2002 年 7 月から 2003 年 3 月の期間に合計約 99 万トンの食糧を供与するもので、マラウイには約 340 万人を対象に約 26 万トンが予定されています。

WFP 本部ホームページのこのプロジェクトの資金源の表 (<http://www.wfp.org/>)

country\_brief/ResUpdates/102000.pdf) には、各国政府と並んで「Malawi Society of Japan」の名前が募金額 US\$11,932、募金による食糧 20 トンとともに掲載されています。平均的に見るとこれは約 260 人への援助に相当します。

1 月 29 日の WFP 発表によると、マラウイでは国際的なドナーグループと NGO の協力で 300 万人近い人が食糧を受けることができ、最悪の事態は避けられています。

一方、2 月 24 日の国連 IRIN ニュースや 2 月 28 日付けのマラウイ国内紙 Malawi Standard によると、マラウイ政府による本年のメイズ収穫量第 1 次推定は、国のストック需要 200 万トン未満に対して約 230 万トンとしています。これは昨年の収穫量の 30 ~ 40% 増に相当します。しかし、降雨や作付けの遅れなどのため、収穫量は変動の要素が指摘されています。

また、1 月初めのサイクロンによる洪水では、被害は全国にわたり 3 万 ha の農地が破壊されました。特に、サリマ、カロンガ、バラカ、ンチェウ、ブワンジェは被災地域と指定されました。国際連合食糧農業委員会 (FAO) は、洪水の被害により収穫を完全に失った 56,000 世帯のために緊急アピールを出し、マラウイ政府農業局はこのような世帯に農業的支援を与えるために援助を求めています。

こうした現状は本年の収穫の不安材料になっており、完全に食糧危機が去ったわけではなく、引き続き多くの活動を展開する必要があります。

私たちの多くは協力隊員としての活動や生活を通じて、マラウイの友人から助けられたり教えられたりした経験も持っていると思います。今回の募金が少しでもマラウイの助けになることを願うとともに今後とも状況を見守っていきたいと思います。募金にご参加くださった皆さま大変ありがとうございました。駐日マラウイ大使館からも、今回の WFP を通じた募金に対し、感謝の意が伝えられていることを申し添えます。

なお、マラウイの食糧不足の状況、WFP の活動は当会ホームページで随時お

知らせしていきますので、どうぞご覧下さい。

**レポート 見てきた WFP の活動**

H11-1 野菜 富田淳也

マラウイで WFP の活動を見てきたので、ここにレポートと写真を掲載します。

日時: 2002 年 10 月 16 日 ~ 17 日  
場所: Dedza 州、Lobi 地区  
Community Center 前

以下、"Concern Universal" というイギリスの NGO 団体所属の現場で働いていた人達から聞いたことを記す。

Lobi 地区においては、8 人の TA (Traditional Authority) がおり、それぞれの地域の Group Village Headman を治めている。更に Grope Village Headman 達が各村の Village Headman 達を治めている。

今回の WFP からの食料援助は 8 人の TA の内、TA Kachere、TA Chilikumendo、TA Tambala、TA Chauma の治める地域が選ばれて行われていた。私が見聞した地域は TA Kachere が治める地域の 1 つで、540 人が援助対象であると言う。Village Headman が高齢者・孤児 (Orphan)・障害者を中心に対象者を選出し、

- \* 葉書をわたす。
- \* 葉書と交換に食料をわたす。
- \* その時に、年齢・家族構成・どれくらい渡したか等をチェックする。

といった感じである。WFP は配布時の混雑を抑えるために、配布場所をさらに細かく分けて配布を行うようである。

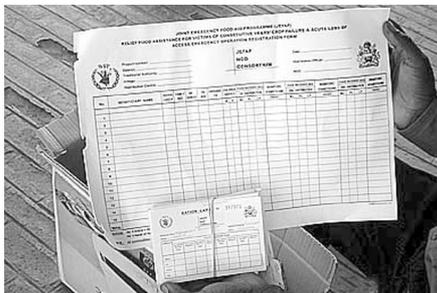
配られる食料は、

1. 主食のトウモロコシ 50kg
2. 朝食をイメージした大豆粉末 (Likuni Parlor?) 10kg
3. おかずとしての豆 10kg

であり、2002 年 10 月から 2003 年 4 月にかけて 3 回の配布を行うようである。(この配布は、トウモロコシや豆類の播種期から収穫期までの援助をイメージしたものと書いていた。)

WFP からの依頼を受けて配布を行っている団体は、イギリスの NGO "Concern Universal" を中心に、他にカソリック教系の NGO "Cadecom"、マラウイ政府が作った NGO "Self Help" の 3 団体で、Distribution Flex, Distribution Monitor に仕事が分担されており、Lobi 地区では 10

人のスタッフが担当していた。Dedza 州では、計 45 人のスタッフが行っているそうである。また、WFP の食料援助は、マラウイ国土を対象としているのである。



食糧配布時のチェック表



配られていたトウモロコシ 50kg サック



配布のスタッフと配布を受ける女性

**レポート 立教大学 文学部で講演**

日本マラウイ協会では、立教大学文学部の栗田和明教授の依頼を受け、2002 年 12 月 13 日(金)に東京・池袋の同大学 5 号館教室にて講演を行った。これは、同教授が本年度の地誌学の授業としてマラウイを取り上げており、そのシリーズの 1 つとして、通常の地誌学とは異なった視点から日本とマラウイの関係をゲストスピーカーとして学生に話して欲しいとの要請に基づいたもの。



講演の様子

当日は当会上田理事が「日本とマラウイを考える」と題して、

青年海外協力隊とマラウイの関係、日本マラウイ協会とマラウイの関係を中心とした「日本とマラウイの関係」  
バンダ前大統領による一党政治時代のマラウイの社会状況を中心に語った「私の協力隊時代」  
マラウイと関わりを持ち続ける日本人を紹介した「関わりを持ち続ける日本人」

の 3 点を柱として、1 時間 15 分にわたって約 50 名の学生を前に講演を行った。学生らは、ほとんど名も知られていないマラウイながら、国レベルでの交流以外にも民間レベルで関わりを持つ個人・団体の存在に興味を示した様子で、熱心にメモを取る姿も見られた。

栗田教授の一連の授業は 2003 年 1 月に終了し、学生らは本講演を含むレポートを提出した。

**レポート 駐日マラウイ大使感動 ~ 小泉総理大臣施政方針演説**

本年 1 月 31 日、第 156 回通常国会で小泉総理大臣は施政方針演説を行いました。その中の「人の育成」の項で総理は青年海外協力隊の活動を取り上げられ、「アフリカのマラウイで数学や物理の教育を行



配布待ちの様子



配布のトウモロコシをもらった人々

う青年や.....が開発途上国の国づくりのために活躍しています。」と話されました。

このことにつき、J. J. Chikago 駐日マラウイ大使は 1 面の 20 周年記念寄稿に加えて、当会の数原会長に書簡を送ってこられました。大使は書簡の中で、

日本の総理大臣が施政方針演説の中で「マラウイ」の国の名前に言及したのは

初めてのことであり、非常に光栄に思う。国会は重要な場所であり、そのような記録は後生に役立つ。貴協会が日本において「マラウイ」の名前を高めるため、たゆまぬ努力をしていることに対して心から感謝する。

と述べられました。同施政方針演説の関連部分を下に抜粋して記します。

**(人の育成)**

英国の作家スマイルズの著書「自助論」は、明治の多くの青年たちの心をとらえたと言われます。自ら志を立て、懸命に学問を修め、勤勉努力した若者たちが主役となって近代国家日本の基礎が築かれました。新しい時代を切り拓くのは、いつの時代でも、自助自律の精神の下、他者への思いやりと高い志を持つ青年たちです。人こそ改革の原動力です。

アフリカのマラウイで数学や物理の教育を行う青年や、メキシコ南部の村で保健指導に従事する女性など、日本とは文化も価値観も異なる厳しい環境で、現在も約 2400 名の青年海外協力隊員が開発途上国の国づくりのために活躍しています。

勇気を持って新しい時代に立ち向かう力を培うため、画一と受け身から自立と創造へと、教育の在り方を大きく転換してまいります。教育基本法の見直しについては、国民的な議論を踏まえ、しっかりと取り組んでまいります。確かな学力と豊かな心の育成を目指した初等中等教育の改革、「知」の世紀を担うにふさわしい大学改革を進めてまいります。

**投稿 国際協力フェスティバル 2002**

H3-3 S.E. 中川朋子

2002 年 10 月 5、6 日、またその日がやってきた。まずマラウイ関係者等のなつかしい顔ぶれにぱったり出くわす楽しみがある。また世界諸事情に関する最新情報の展示を見たり、世界各国の食品、雑貨を買ったりする楽しみもある。青年海外協力隊 OB/OG、国際協力事業団 (JICA) 関連団体、NGO、NPO 団体、国連組織等のブースが、

日比谷公園に軒を並べ、その中で日本マラウイ協会も好位置にブースを構え、2 日間の活動を行った。

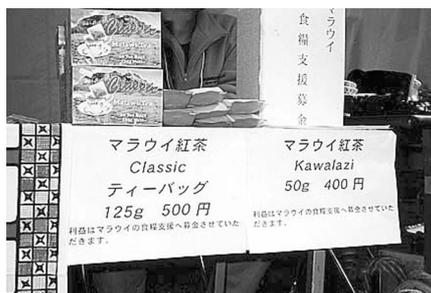


出展テントの様子

今回は食品販売に対する主催者の方針が変わり、例年のマンガジ(揚げパン)とチョンベティー(紅茶)の販売はコスト高となったため取り止めた。少々さびしい感はあったが、マラウイ大使館とワスワヒリの会の協力を得て2種類の紅茶葉、民芸品、切手、国情紹介誌、チェワ語辞典、マラウイ旅行ガイドブック等の販売を行い、6万円あまりの売り上げを得た。また「マラウイ食糧支援募金箱」を当協会のブースに設置するとともに、東京OB会のブースにも設置させて頂いた。その結果、多くの方々のご支援を頂き2日間で合計38,207円もの寄付が集まり、マラウイに対する関心の高さを実感した。

ブースに立ち寄せられたたくさんの方から「マラウイってどこ?」と尋ねられた。少しの時間でも、マラウイの情報発信が出来たことが嬉しい。またリピーターのお客さんもいらした。チョンベティーと

マンガジセットを楽しみにされていたようである。あのセットは、他にはないほのぼのとした素朴な味が魅力で人気が高い。ぜひ復活を望みたい。さらに新たな商品も常時募集している。



2種類のマラウイ産紅茶葉の販売

今回、当協会ブースは11名のボランティアで運営を行ったが、その中から「今後はブース内にマラウイの大きな地図や写真等の展示物を増やしてはどうか」と

の建設的な意見が出た。次回に向けての参加意欲も旺盛である。今年も同時期に開催される予定である。ぜひあなたも今年の10月は国際協力フェスティバルで始まる月にされてはいかが?

## 《日本マラウイ協会》

平成14年9月～平成15年2月活動内容

### 〔食糧支援募金活動〕

【9月～2月】2面の記事参照

### 〔国際協力フェスティバル2002への参加〕

【10月5、6日】3～4面の記事参照

### 立教大学文学部での講演

【12月13日】3面の記事参照

### ホームページの更新

【9月～2月】

# 日本マラウイ協会情報

## 訃報

初代マラウイ大使であり、初代日本マラウイ協会会長であったト部敏男氏が平成15年2月8日、逝去されました。90歳でした。告別式は2月18日、東京・杉並の築地本願寺和田堀廟所光寿閣で行われ、当会からは数原会長、貝塚専務理事、竹谷事務長が参列しました。ここに、初代会長の功績を偲びご冥福をお祈りします。

駐日マラウイ大使館に2002年3月から勤務されておられましたDinala J. Balakasi 第1秘書が2月22日、東京都内の病院で逝去されました。32歳でした。ご遺体は2月26日、ご家族が付き添い本国へ搬送されました。ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

## 第21回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は第21回通常総会を下記のとおり開催します。会員の皆様は本紙に同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

1. 日時 平成15年5月10日(土) 15:00～17:00
2. 場所 青年海外協力隊広尾訓練研修センター2階大会議室

## ホームページの更新

当会ホームページの更新、内容の充実に努めております。食糧支援募金のその後の動きなども随時お伝えしております。是非アクセスしてください。また、ご意見・ご要望をお待ちしています。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawij.htm>

## 日本マラウイ協会の刊行物

チェワ語辞典 統合改訂版(2000年7月発行)  
B5版 186ページ 1部 1,500円(送料310円)

マラウイ旅行ガイド 新訂第2版(97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版 108ページ 1部 1,200円(送料310円)

国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)A4版 40ページ 1部 1,000円(送料310円)

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記

してください。銀行振込の場合は事前に必ずE-mail、あるいは電話/FAXで「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

## ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

## 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第3水曜日 18:30～に、東京都内(通常はJOCV 広尾訓練研修センター 1F 研修室2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

## 日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。

E-Mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記の郵便振替口座へお送りください。

〒150-0012

東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921

FAX: 03-5798-4269

E-mail: [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

郵便振替 00190-7-13125

加入者名 日本マラウイ協会

協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。